

小・中学生を対象とした『まち学習』の特徴

早稲田大学大学院 学生会員 ○神田 裕史

早稲田大学 フェロー 中川 義英

1. 研究の背景及び目的

市民自身が日頃からまちに親しみ、関心を持ち、理解を深め、主体的に参加することが住みよいまちをつくるために重要となっている。

その中、子どもの頃からまち・まちづくりに意識・関心を育ませる事が将来のまちづくりへ繋がると期待され、『まち学習』が行われてきている。義務教育課程の子どもが『まち学習』を経験することは、将来のまち・まちづくりを担う力を育てることに繋がると考えられる。

また、子どもたちが体験することで、その親である大人たちに対しても、まち・まちづくりに目を向けさせる波及効果が期待される。

現在、各地で学校、行政、市民グループ、財団法人・社団法人、大学を主体とした『まち学習』が行われている。文献・ヒアリング等で確認できた 72 事例をもとに、本研究では各主体別に『まち学習』の特徴を取りまとめるのを目的とする。

2. 本研究における基礎概念

「まち学習」、「まちづくり学習」の定義

・「まち学習」

…身近なまちの様子を知り、新たな発見や問題に気づく学習。

・「まちづくり学習」

…「まち学習」からわかった問題点を自分の視点、他者の視点から考え、お互いの意見を尊重した上で、計画案の作成または提案をする学習。

本研究では、「まち学習」、「まちづくり学習」双方を指すときは『まち学習』と表記する。

3. 実施主体別の『まち学習』の特徴

3.1 学校

■ 学校主体で行われた『まち学習』は、全て「まち学習」である。

<活動内容>

■ 多くの学校がフィールドワークを利用している。そのため、学習フィールドが校内（教室）に留まらず、身近な地域（学校外）へと広がっている。

フィールドワーク後の学習として、作品づくり（マップづくり、模型づくり、絵本づくり、芝居等）を多くの学校が行っている。その中でも、マップづくりが最も利用されている。

マップづくりの例として、自分のまちの「好きな所」、「嫌いな所」に着目しながら、フィールドワークを行い、各自、または各グループでマップにそれらを書き込んでいく。マップをつくる事で、自分のまちの「好きな所」、「嫌いな所」の再認識や他人がどういった所が好きで、どういった所が嫌いなのかを視覚的に、または直接本人とコミュニケーションを取ることで、自分のまちの新たな発見、気づきを促すきっかけが与えられる。

<対象者>

■ ほとんど小学生・中学生であるが、多くの事例は小学生を対象としている。

3.2 行政

■ 行政主体の『まち学習』は、「まち学習」、「まちづくり学習」共に行われている。

<活動内容>

■ a) コンクール、b) フィールドワークのみ、c) 発言型、d) その他の四つに大別する。

a) コンクール

子どもから一般人までが対象となっている。

まちでの体験やまちづくりへの提案を絵や地図などにした作品のコンクールである。授業として、このまちづくりコンクールを利用している学校もある。

b) フィールドワークのみ

まちに触れる最もシンプルな体験活動である。そのため、多くの地域で行われている。

c) 発言型

集めた事例は、二つしかないが、一つは「水巻町中学生会議」、もう一つは「まちづくり提案箱」である。

前者は、中学生に議会を身近に感じてもらい、その意見をまちづくりに生かそうと隔年で、今現在まで行われている。後者は、まちづくり推進課が広聴活動の一環として始めたもので、初めは、まちの6カ所に提案箱を設置するのみであったが、今現在では電子メール、ホームページからもアクセス可能で、より町民の声が聞きやすい仕組みとなっている。

d) その他

上記以外にも様々な『まち学習』が行われている。一過性のイベントとして終わるものから、2、3年間行われているものまでである。

実施内容としては、フィールドワークを行い、作品

キーワード：『まち学習』、小・中学生、実施主体

連絡先：〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1 51 号館 15-11 A

づくり（まちカルタづくり、まち絵本づくり等）、またはまちの模型を使ったまちづくりゲームなどがある。特徴として、まずフィールドワークを行い、その後全体、もしくはグループでのワークショップを利用しての作品作成が挙げられる。

<対象者>

- ほとんどが小学生である。他の実施主体の『まち学習』対象者と違って、子どもだけではなく、大人までの幅広い世代が一緒になって参加している事例が多く見られる。

3.3 市民グループ

- 市民グループ主体の『まち学習』では、「まち学習」「まちづくり学習」共に行われている。特に、他の実施主体に比べ「まちづくり学習」が多く行われている。
- 市民グループの活動メンバーは主に、大学教員、地方公務員、まちづくり等の関連業種の会社員等専門的な知識を有するものが集まっている。
- 市民グループの『まち学習』の特徴は、同じ場所で継続して行うのではなく、違う地域に移動して『まち学習』を行っている。

<活動内容>

- 特徴はフィールドワークを行い、その後ワークショップを利用しての作品作成である。他には、フィールドワークを行わず、ある場所で模型を利用したワークショップ、作品作成。または自分達のまちを知ることが目的としたフィールドワークのみを行っているものもある。

<対象者>

- ほとんど小学生である。特に「建築と子供たちネットワーク」は、小学校の授業に多数関与して「まちづくり学習」を行っている。

3.4 財団法人・社団法人

- 財団法人・社団法人（以下法人と記す）主体の『まち学習』では、「まち学習」「まちづくり学習」共に行われている。

<活動内容>

- a) コンクール、b) フィールドワークのみ、c) 『まち学習』体験の三つに大別する。

a) コンクール

行政で実施されているまちづくりコンクールと同様である。

b) フィールドワークのみ

フィールドワークのみは数多く行われている。どの事例にも共通することは、自分のまちを知ることが主な目的としている。

c) 『まち学習』体験

市民グループが行っている活動内容と同様で、建築

学会、まちづくりセンター等が、各地で『まち学習』体験を開催している。

市民グループは活動内容がフィールドワークを行ってのワークショップ、作品作成であるが、法人はフィールドワークを行わずに、模型を利用したまちづくりゲームを行っているものがほとんどである。

<対象者>

- 親子での参加が多く見られる。

3.5 大学

- 大学主体の『まち学習』では、「まち学習」「まちづくり学習」共に行われている。

<活動内容>

- 他の実施主体同様フィールドワーク、ワークショップ、作品作成がほとんどである。
- a) 学校の授業として行っているもの、b) ある地域で行っているものの二つに大別する。

a) 学校の授業として行っているもの

小学校低学年に対しては、「まち学習」を、小学校高学年以上に対しては、「まちづくり学習」を行っている。

小学校低学年の「まち学習」では、フィールドワークを行う際、主にカメラを使用している。これは、カメラが表現力の未熟な子どもにとって、具体的な対象を簡単に収集・表現・伝達できる媒体、手段となっている。

また「まち学習」レベルでは、大学の研究室がその学校の授業に関与しなくなった後でも、学校の教師によって次年度以降も行われている。

しかし、「まちづくり学習」レベルになると大学の研究室が学校の授業に関与しなくなった後では、続けることが困難となり終わっている。

b) ある地域で行っているもの

大学の研究室が、ある地域で『まち学習』を行う場合も、小学校低学年に対しては、「まち学習」を、小学校高学年以上に対しては、「まちづくり学習」を行っている。

その中でも、札幌の「こどもまちかど解決隊」は、様々なまちづくり活動を展開し周りの人（行政、住民）にまちづくりへの興味や意識を促進させている。

<対象者>

- ほとんどが小学生である。

参考文献

- 1) (財)住宅総合研究財団：「住まい・まち学習」実践報告・論文集、丸善株式会社、2000
- 2) こどもとまちづくり研究会：こどもとまちづくり 面白さの冒険、(有)風土社、1996
- 3) (社)再開発コーディネーター協会：防災まちづくり学習実践手法検討調査報告書、2002